

# 第1回三島駅インバウンド誘客検討会 議事録

日 時 令和7年6月13日（金）

13時30分から14時30分まで

会 場 三島商工会議所会館3階会議室

出席者 委員名簿のとおり

## 1 報告事項

- (1) 三島駅と訪日外国人観光客をめぐる状況
- (2) インバウンド誘客に向けた取組等について
- (3) 進め方（検討体制、スケジュール）について
- (4) その他

## 2 会議の内容

### 【開会】委員長挨拶

- 訪日外国人旅行客の延べ宿泊数をみると、コロナ前の2019年から2024年は全国で約4割増である一方で、本県では2019年の約8割にとどまっている。
- 拠点駅の「三島駅」に着目すると、東海道新幹線で東は東京、西は関西・大阪、外国人に人気の箱根や河口湖ともつながっており、外国人観光客の大波、潮流が県内にも来ているが、滞在に結びついていない。
- 伊豆・富士山エリアの資源をしっかりと活かして観光客を取り込むために、現状何が問題で何をやる必要があるのか、ということを考えていく必要があるといった経緯から、この検討会を作らせていただいた。
- 委員の皆様方には、お持ちの情報、データ、知見、ネットワークを活かして検討会の成果を高められるように御協力をお願いしたい。

### 【報告事項1 三島駅と訪日外国人観光客をめぐる状況】

事務局より資料の説明

### 【報告事項2 インバウンド誘客に向けた取組等について】

各委員より資料の説明

(埜村委員)

- 県全体に比べ、三島は国籍、目的、旅行の日数など様々なタイプのインバウンドが滞在・通過している。
- ヒートマップの夜間人口は宿泊しているインバウンドと推定できるが、静岡市や浜松市と並び、伊豆地域では、熱海・伊東など東海岸が多いことがわかる。
- 次の人流データでも三島を訪れた外国人は、その前後で、箱根、東京都内、山梨県の富士河口湖町のほか、熱海や伊東、東伊豆にも多く移動している。JR新幹線・在来線、バスでの移動が中心だが、三島駅はレンタカーの利用も多い。
- 隣県と連携した人流増や半島全域での周遊増、また、旅行客の「人数の増」というより「消費額の増」等が有効な策として考えられる。

(植松委員)

- 初めて日本を訪れる外国人は「ゴールデンルート」を外さないの、そこに伊豆半島を入れ込むのは難しい。
- 当センターでは、リピーターを対象に様々な事業展開を行っているが、FIT（個人旅行者）が多いことから、情報発信が重要と考えている。

(宮崎委員)

- 箱根、山梨を含めた広域連携が重要で、三島は「ハブ」を目指したい。
- 本検討会はいつ、何を実行していくんだという話し合いをして、スピード感を持って進めていきたい。
- 当協会では、案内業務を充実させたいと考えており、特にガイドの整備に力を入れている。

### 【報告事項3 進め方（検討体制、スケジュール）について】

事務局より資料の説明

### 【報告事項4 その他】

(川口委員)

- 県では、昨年度、「インバウンドベンチャー」に取り組み、スタートアップ企業とマッチングしながら、地域の課題解決をするという事業を県内各地で実施した。今年度は、富裕層を対象としたガストロノミーツーリズムの強化、ナイトコンテンツやモーニングコンテンツの充実、高級ホテルの誘致に注力していきたい。
- 今回、地元の声や三島駅周辺でどういった動きがあるのかなど「見える化」が進んだ。どんなささいなことでも成功事例を作っていくということが大事。
- 今後、共創で東部・伊豆全域に取組の輪を広げたいので、委員の皆様、傍聴の皆様にも御協力を賜りたい。

(植松委員)

- 三島駅では再開発が進められているが、これに伴って広域の情報発信も強化されればありがたいと思う。連携しながら誘客促進していければと考える。

(埜村委員)

- ICU大学生による調査結果はインバウンドの生々しい声を拾い集めており、これに厚みが増えれば、まさにインバウンドの実態が見えてくると思う。

(事務局)

資料の説明

(委員長)

- ICU大学生による調査はサンプル数は多くなく、対象国・地域も偏りがあるようだが、レポートの内容はしっかりしているように見受けられる。こうした生の声を集める調査も拡大していけないか、考えているところ。
- 今日皆様にご示していただいたようなデータや、ヒアリング結果、他県との比較など、材料を組み合わせることで実情や課題を明らかにし、それに基づいた方策の検討を進めていきたい。皆様には今後とも御協力をお願いする。